

現施設について

1 収蔵庫と展示室を離れた場所に整備した美術館及び博物館

第2回部会では、収蔵庫と展示室を離れた場所に整備した美術館の事例が取り上げられたことから、国内の事例を調査し、収蔵庫と展示室を別の場所に整備することのメリット等についてヒアリングを行った。

(1) 事例調査結果

施設名	施設の概要
国立科学博物館	展示室は上野、収蔵庫は茨城県つくば市の研究施設に整備。収蔵品の運搬頻度は月6～7回程度。研究員(学芸員)はつくば市の研究施設に62名勤務。
神奈川県立近代美術館	葉山館、鎌倉別館にそれぞれ展示室、収蔵庫を整備。展覧会の内容に応じて収蔵品の行き来がある。収蔵品の運搬頻度は3,4か月に1回程度。学芸員は葉山館11名、鎌倉別館4名。
新潟県立万代島美術館	長岡市の本館と新潟市の分館にそれぞれ展示室、収蔵庫を整備。本館から分館に作品の貸出しを行っている。収蔵品の運搬頻度は年1～2回程度。学芸員は本館に7名、分館に5名。
北九州市立美術館	戸畑区の本館に展示室と収蔵庫、小倉北区の分館に展示室のみを整備。分館では、原則、企画展のみを開催し、本館の収蔵品を運搬することは通常しない。
美術館 A	美術館内に展示室、収蔵庫を整備しているが、容量不足のため外部倉庫を借りている。運搬頻度は年間12回以下。
美術館 B	本館(都心)に展示室、分館に収蔵庫、研究スペース等を整備。運搬頻度は年6回。

(2) 収蔵庫と展示室を離れた場所に整備することのメリット及びデメリットのヒアリング結果

メリットに関するヒアリング結果	デメリットに関するヒアリング結果
<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫と展示室が遠隔の場合、被災リスクを分散できる 敷地に余裕のある郊外に収蔵庫を整備できる場合、大規模な収蔵面積の確保が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送に伴う作品等の破損リスク、コスト、業務負担等が増大する 収蔵庫がある施設にしか学芸員を配置しない場合、展示室がある施設では他機関から借用した重要文化財の展示が不可能 収蔵庫、展示室にそれぞれ学芸員を配置しない場合、トラブル発生時の迅速な対応が難しくなる 民間の美術品倉庫を借りる場合、保管に適した室内環境、必要規模、アクセス性等の条件を満たす物件が少なく、必要なタイミングで確保することが難しい。

被災リスクの少ない場所で、収蔵庫と展示室を同じ施設内に整備することが望ましい

2 公設の美術館及び博物館の複合施設の規模

市民ミュージアムの再整備に向けた検討の参考とするため、国、県、政令指定都市^{※1}について、公設の美術館と博物館の複合施設(以下「複合型ミュージアム」という。)の規模を調査した。

自治体名	施設名	開館年	延床面積 (㎡)
川崎市	川崎市市民ミュージアム	1988	19,542
沖縄県	沖縄県立博物館・美術館	2007	23,721
香川県	香川県立ミュージアム	2008	19,657
鳥取県	鳥取県立博物館	1972	9,699
複合型ミュージアムの延床面積の平均			17,692 ^{※2}

※1 国、政令指定都市に複合型ミュージアムは事例無し ※2 事例の数が少ないものの、公設の複合型ミュージアムの平均規模の参考値として、各施設の延床面積の平均を算出した。

【参考】 政令指定都市の美術館(特定の作家の作品を専門的に扱う美術館は除く)と博物館の合計床面積^{※1}

自治体名	施設名	延床面積の合計(㎡)	自治体名	施設名	延床面積の合計(㎡)
横浜市	横浜美術館、横浜市歴史博物館	36,098	千葉市	千葉市美術館、千葉市立郷土博物館	19,965
大阪市	市立美術館、大阪中之島美術館、大阪歴史博物館	50,625	北九州市	北九州市立美術館、北九州市立いのちのたび博物館	24,811
名古屋市	名古屋市美術館、名古屋市博物館	26,054	堺市	(市立美術館なし)、堺市博物館	6,371
札幌市	札幌芸術の森美術館、(市立博物館なし)	3,370 ^{※2}	新潟市	新潟市美術館、新潟市歴史博物館	11,059
福岡市	福岡市美術館、福岡市博物館	31,254	浜松市	浜松市美術館、浜松市博物館	5,829
神戸市	神戸ゆかりの美術館、神戸市立博物館	11,373	熊本市	熊本市現代美術館、市立熊本博物館	14,935
京都市	京都市京セラ美術館、京都市歴史資料館	21,511	相模原市	(市立美術館なし)、相模原市立博物館	9,510
さいたま市	うらわ美術館、さいたま市立博物館	4,630	岡山市	岡山市立オリエント美術館、岡山シテュリアム	10,536
広島市	市現代美術館、市郷土資料館、市平和記念資料館	23,835	静岡市	静岡市美術館、静岡市立登呂博物館	5,690 ^{※3}
仙台市	(市立美術館なし)、仙台市博物館	10,800	政令指定都市の平均		17,277

※1 会議室、エントランス、搬入口等、複合型では美術館と博物館で共用する諸室が、単館型では各々に必要となるため、美術館と博物館の合計床面積を複合型ミュージアムの床面積と直接比較することは難しいが、参考までに合計床面積を算出した。 ※2 現在、札幌市では床面積10,000㎡以上の博物館の建築を計画。 ※3 現在、静岡市では床面積5,000㎡程度の博物館の建築を計画。

3 市民ミュージアムの再整備に向けた整備手法と主な課題

第2回部会では、現状の規模を維持した場合の課題等を整理していたため、今回、規模を変えた場合についても整理を行った。現在、施設規模の決定に必要なミュージアムの機能等が未決定であることから、展示室、収蔵庫、機械室の規模を公設の複合型ミュージアムの延床面積の平均(約17,700㎡)と同等の規模と仮に設定した場合について、検討を行った。

	① 現施設に増築	② 等々力緑地外に移転(複合型)	③ 等々力緑地外に移転(単館型)
イメージ図			
延床面積	約31,900㎡ (現施設 約19,500㎡、増築部分 約12,400㎡ ^{※1})	約17,700㎡	合計 約17,700㎡ (美術館 約8,850㎡、博物館 約8,850㎡)
最高高さ	約66m ^{※2}	約16m ^{※5}	約16m ^{※5}
主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の緑地を保全する必要があるなど、限られた敷地内で増築するため、高層化が必要となり、高さ規制の許可の上限(原則31m^{※3})を超過する 現施設の規模を約12,400㎡上回り、過大な規模となる 現施設のデザイン性を損なう 等々力緑地再編整備事業について、市民ミュージアムを陸上競技場内に複合整備するPFI提案を受けているため、等々力緑地再編整備実施計画の改定検討との調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の広さ、交通利便性、周辺環境等を踏まえ、適切な移転場所の確保が必要 移転先の土地利用規制に応じて法令に基づく手続きが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の広さ、交通利便性、周辺環境等を踏まえ、適切な移転場所の確保が必要 移転先の土地利用規制に応じて法令に基づく手続きが必要 複合型では共用できていた諸室(会議室やエントランス等)、設備、人員等を単館型では各々に整備する必要があり、複合型に比べてコスト等が増加する。

※1 展示室、収蔵庫、機械室の必要面積(約15,000㎡)を現施設の3階(約4,200㎡)と増築部分の3～9階(約10,850㎡)で確保し、1・2階をピロティ(約1,550㎡)とするため、増築部分の面積は約12,400㎡。 ※2 3F以上の階高は、現施設の機械室部分や2階展示室部分の階高と同じ8m、1,2Fの階高の合計は3F以上が浸水しないように10mとした。 ※3 参考:川崎市都市計画高度地区ただし書第2項第4号の規定に基づく許可の基準。 ※4 移転先の敷地面積や高さ規制により階数が変わるため、仮に2階建てと設定した。 ※5 1、2Fともに現施設の機械室部分や2階展示室部分の階高と同じ8mとした。